

表5 鋳工業生産指数採用品目数 新旧比較

	生産		増減数	生産者製品在庫		増減数
	平成7年	平成2年		平成7年	平成2年	
鋳工業	182	198	△ 16	112	120	△ 8
製造工業	179	195	△ 16	109	117	△ 8
鉄鋼工業	4	4	0	2	2	0
非鉄金属工業	8	10	△ 2	7	9	△ 2
金属製品工業	11	10	1	3	3	0
一般機械工業	15	20	△ 5	7	8	△ 1
電気機械工業	27	31	△ 4	5	4	1
輸送機械工業	6	4	2	3	2	1
窯業・土石製品工業	15	15	0	13	14	△ 1
化学工業	19	24	△ 5	19	24	△ 5
石油・石炭製品工業	6	7	△ 1	6	7	△ 1
プラスチック製品工業	5	7	△ 2	5	7	△ 2
パルプ・紙・紙加工品工業	8	7	1	7	5	2
繊維工業	16	16	0	15	14	1
食品工業	25	25	0	8	8	0
その他の工業	14	15	△ 1	9	10	△ 1
ゴム製品工業	4	4	0	4	4	0
家具工業	5	5	0	4	5	△ 1
木材・木製品工業	3	3	0	1	1	0
その他製品工業	2	3	△ 1	0	0	0
鋳非金属	3	3	0	3	3	0
公益事業	2	2	0	3	3	0
産業総合	184	200	△ 16	112	120	△ 8

平成7年基準ウエイト  
の特徴について

平成2年基準と平成7年基準のウエイトを比較すると、生産ではまず電気機械工業が大きく増加している事があげられます。

これは、工業統計調査の結果でも同じ傾向が見られ、県内に電子管・半導体素子等の大規模な工場の進出があったことが大きな要因だと考えられます。

平成2年基準においてウエイトの占める割合は、輸送機械工業が1位、化学工業が2位となっていたましたが、平成7年基準では2位に電気機械工業が入り、1位の輸送機械工業との差も縮まっています。

次に非鉄金属工業のウエイトが大きく増加していますが、これは主に銅被覆線や光ファイバークーブル等の通信線の生産拡大によるものと考えられます。

逆にウエイトが低下したのは繊維工業ですが、これは全国的にも平成7年基準におけるウエイトが低下しています。